

## 会 議 録

会議の名称	平成28年度第3回富士見市社会教育委員会議
開催日時	平成28年6月24日（金）午後7時00分～9時00分
開催場所	教育委員会 会議室
出席者	本間雄一委員、長ヶ原美博委員、吉田廣子委員、 小森重紀委員、武田秀規委員、大根田良夫委員、 岩村沢也委員 事務局
欠席者	田尻 円委員、千葉純平委員、搦木道代委員
公開・非公開	公開（傍聴人 0人）
会議次第	1. 協議事項 （1）地域活動から見える子どもの居場所について 2. 報告及び連絡事項
会議資料	定期刊行物
会議録確認	本間雄一委員

## 会 議 内 容 (要点記録)

### 1. 開 会

○議長あいさつ

### 2. 協議事項

#### (1) 地域活動から見える子どもの居場所について

事務局より、事前に委員より提出された資料（所属団体や地域活動で感じる「子どもの居場所」についてのレポート）について、説明。

**【議長】** それぞれ提出いただいているので、説明をお願いしたいと思う。

**【委員】** 本校では、昨年度、算数の家庭学習について、家庭に協力を求めた。基礎学習の定着や学習の習慣化を図ることを目的としたものである。家庭学習といっても、単なる「プリント学習」というものではなく、家庭学習を行う際に『こういうところを気にしながら行ってください』というものを提示して、協力を求めた。家庭学習のポイントということで、①テレビを消す②始める時間を決める③学習時間を決める、の以上3点である。そのほかに、「こんな家庭学習をしてみましょう」ということで、学年ごとに項目を挙げさせてもらった。学習をする環境を作るということが大事で、項目の中で高学年の「ニュースや新聞を見て感想を書こう」や「不思議に思ったことを事典や図鑑などで調べてまとめよう」などは、総合的な学習の時間の学習や国語に大きく影響が出てくる。少し前は、リビングに辞書・図鑑・地図の3点セットを置くと子どもの学習環境として良いといわれていたが、最近でもまたこの傾向がでてきているという記事をみた。興味深いところではある。

**【委員】** 青少年育成市民会議や文化協会などに現在属している。水谷地区で始めた宿題教室や祭りで行う富士見音頭など、子どもと関わることが多い。伝統芸能の分野などでも、子どもたちに伝えることで、将来大人になって富士見市をふるさとと感じてもらえたら嬉しい。他に、町会や地域子ども教室などに関わっている。

**【委員】** 地区的には、羽沢3丁目になる。諏訪小学校区であるが、運動会など地域により、ずいぶん参加の仕方に温度差があるように感じている。また、高齢者の参加は多いが、世代により偏りがある。最近だと、集会所の周りに住宅が建ち、以前よりカラオケをやっていた団体に騒音で苦情が入るという状況がおきていたりする。昨年度、近所でボヤがおき、その際に、隣同士で「謝る・謝らない」というトラブルが起きた。地域を考える上で、難しい課題である。

**【委員】** 南畑の地域は、一幼稚園・一小学校・一中学校・一公民館があるので、地域のイベントなどがまとまりやすい傾向があると思う。南畑小学校では、市内で唯一の鼓笛隊があるため、イベントで呼ばれることが多い。それにより、期待される・役割を与えられるということが、子どもたちの自信につながっているという部分はあると思う。その流れで、東中学校や富士見高校の吹奏楽部にも波及している。また、逆に幼稚園にも鼓隊（笛はない）がありつながっている。地区体育祭やふるさと祭りなどは、参加者ではなく、運営スタ

ップとして、東中学校の生徒が参加している。他に、夏休みに入る前の自転車点検では、地元の業者を含めて、子どもの生活環境を見守っている。

【委員】レジュメの「農業体験」というのは、希望者か？

【委員】希望者ではなく学校の総合的な学習の時間にやっている。南畑小学校が借りている田んぼがあり、対象の学年が手植えから収穫まで行っている。

【委員】地区体育祭は小学校区ごとに行われているが、東中学校はそういう意味で諏訪小学校の子ども達も入っている。その点は？

【委員】中学生の地区体育祭への参加は強制ではない。中には、諏訪小学校卒業の中学生もいると思う。『来てくれたら嬉しい』というようなスタンスで大人の方は構えている。

【委員】みずほ台小学校・本郷中学校区になるが、主にPTA活動中心に地域に関わってきた。本郷中学校は資源回収に特徴があり、学校・PTA・親父の会が連携をとって行っている（親父の会の方に軽トラを出してもらい、現役PTAが助手席に乗って、数か所の集積所をまわって回収。学校に集める方式）。子どもが卒業して、PTAが終わってしまうと、地域との関わりが薄れてくるのが現状。そういう方たちが地域に残ってくれていると、大変活力になると思われるので、その方たちが活躍できるような団体や受け皿もまた必要。地域子ども教室は、町会や青少年育成市民会議など各種団体と関わりながら運営を行っている。みずほ台小学校区は子供会育成会がないため、PTAや地区社協の子ども部会の協力が大きい。団体は多くあるが、その母体となる団体に人が少なく、運営が大変という話をよく聞く。

【委員】「家庭教育支援」ということでださせてもらった。学校教育に長く携わってきたが、関わってくれる親が減ってきたように感じる。その背景には、学校への信頼が薄れてきているということがあると思う。幼稚園や保育園での家庭教育講座に始まり、小学校の就学児検診や入学説明会時の親の学習講座など、学校では、「こういうことをやっている」という姿勢を出して、わかってもらいどころから始めないと、なかなか理解は得られないのが現状ではないかと感じる。また、小学生から大学生までの交流、異年齢交流が今後、子どもが育つ上では大事になるだろうと感じている。

【委員】中学・高校生は時間的に忙しいというイメージで地域でつかまえるのが難しいという印象はある。

【委員】それも、やはり地域性が大きい。中学・高校生がいる地域はある。

【委員】同感。小さい時から地域に遊ぶ場所があると、中学・高校生になっても地域のその場所が集まる場所になっていたりする。

【委員】淑徳大学では、教育学部の学生については、年度当初に学生ボランティアの募集の掲示があり、教育実習を兼ねるようなかたちでかなり地域へ出て行っている傾向はある。経営学部の学生については、どちらかというところ、地域おこしの事業への参加が多い。学生の派遣はできていても、大学という知的資源については、まだ十分に地域に還元されていないという部分がある。産学公の協働の事業展開が今後必要になってくると感じている。

【議長】一通り話していただいた。「地域でできる子どもに向けた支援は何があるか？」という観点からみなさんにいろいろご報告をいただいた。それをもとに、今後の議題と検討手順については、以下のとおりとする。

- 1) 「地域でできる子どもに向けた支援は何があるか」ということで、これまで議論をしてきた。テーマとしては、①家庭教育支援・②学習支援・③居場所ということにしぼる。
- 2) ①現状・②課題・③提案という工程を考えると、現段階で現状はでている。各委員が出した活動をいくつかの視点に沿って仕分けることで、課題が明白になるのではないか。そのため、各人の活動だけでなく、委員全員が列挙した事業について、精査を行う。その際に「私はこう思う」という視点は、考えない。
- 3) シートについては、事務局より会議録と共に、送付。

### 3. その他

#### 次回会議日程

#### 平成28年度第4回会議

日程：平成28年9月16日（金）午後7時～

場所：教育委員会 2階 会議室

### 4. 閉 会

○副議長あいさつ